

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実 3 豊かな自己表現力の育成</p>
---------------------------	---	----------------------	---

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初		評 価 結 果 (10)月			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
確かな学力の定着を図る学習指導の充実	(地) いろいろな事象に対して興味・関心を広げるために、教材を工夫したり環境を設定したりする。	情報が入りにくい、様々なことに興味・関心がもてにくい。	①いろいろな事象に興味をもってかかわる。 ②いろいろな事象に興味・関心をもって調べたり尋ねたりする。	①学部で定期的に事例研究会を実施し、共通理解をしながらより良い支援を考える。			
	(幼) 体験的な活動ができる環境や機会を設定する。	経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい。	①いろいろな事象に興味・関心を持ってかかわり、自分で考えて行動できるようになる。	①身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ②継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫し、体験的な活動の場を多く設定する。			
	(小) 基礎学力が向上するよう、児童の適切な実態把握を行い、支援に活かす。	つまずきの把握や教室環境の工夫により学力が定着しつつあるが、文章を読んで質問に答える等の読解力に課題がある。	①児童の実態把握を適切に行い、指導や支援に活かすことにより、文章を読んで質問に答えることができるようになる。	①適切な実態把握の方法を模索し、一人一人についての言語の課題を把握する。 ②教材研究会を行い、授業実践を行う。 ③授業研究会を行い、一人一人の課題に合った指導や支援を検討する。			
	(中) 考える力を育む支援の工夫や教科指導の充実によって、主体的に学習しようとする態度を育てる。	学習の定着が課題である生徒、思考力・応用力が課題となる生徒と実態は様々だが、視覚的支援や体験的な活動を取り入れることにより意欲的に学習しようとする。宿題など決められた学習についてはこなすことができるが、課題や疑問に対して自分から調べたり解決したりすることや事前に調べたり学習したりする自主学習ができるまでには到達していない。	①学習内容を理解し、課題に対して自ら考え判断し、自主的に取り組もうとする。	①発達検査等、生徒の実態把握を行い、学部全体で共通理解を図り、教科における支援方法を考える。 ②授業において、考える時間を確保したり、個に応じて考えるためのノートの書き方やワークシートの作り方を工夫する。			
	(高) 自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をすることともに、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	家庭学習の時間が1時間未満という生徒もあり、家庭学習が習慣化していない実態がみられる。学習への動機づけと同時に日々の授業において、その指導法を工夫し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	①家庭学習について、個々の生徒が目標の家庭学習時間と内容を設定し、継続して学習できるようになる。	①家庭学習の内容や時間の確認を継続して行い、個に応じた家庭学習の仕方を具体的に指導する。 ②教科会を中心に情報共有し、個々の生徒のつまずきや特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫する。			
自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実	(地) ①補聴器が装着できるように家庭と連携を図る。 ②通級指導で学んだことが生活に生かせるように家庭や在籍校と連携する。	①補聴器が装着できない乳幼児が多い。 ②自己認識が育っていないため、課題解決に向けての行動が起しにくい。	①保護者の支援により補聴器が装着できるようになる。 ②家庭や在籍校と連携を取り、場面に応じて学んだことが生かせるようになる。	①保護者に補聴器装着の必要性を理解してもらうための機会を設定する。 ②連絡帳を使っての情報交換や授業参観、懇談等の機会を増やす。			
	(幼) 社会生活における望ましい態度や習慣が身に付くように、幼児の実態に応じ、様々な人とかわる場を設定したり、かわり方を支援したりする。	基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等がまだ身に付いていないが、他者とのかわりを好んでいる。	①基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等を身に付けながら、友だちや身近な人と楽しくかかわれるようになる。	①評価時は何が良かったのか分かるように称賞する。 ②やり方が分かり、意欲が高まるような教材や題材を提供する。 ③友だちとかわる中で、ルールの定着を図ったり意欲を高めたりするような場面を設定する。			
	(小) 基本的な生活習慣の定着を図り、社会生活における望ましい習慣や態度を育てる。	基本的な生活習慣・学校生活のきまり等について、未習得の部分も多く指導が必要である。	①基本的な生活習慣が定着し、集団活動においてきまりやルールを自ら守ろうとすることができる。	①合同学活での集団活動の際、モデルを示したり、どう行動したらよいか気づけるような声かけをしたりする。 ②場面をとらえて適切な行動ができるよう声かけを行う。			
	(中) 職場見学・職場体験学習・個人面談を通して、中学部以降の進路への意識を高める。	将来に向けた漠然とした夢は持っているが、中学部以降のはっきりとした進路はまだ決まっていない。体験入学や職場体験学習などの具体的な場面を通して自分の生き方について考えることができるようになって考えられる。	①体験入学や職場見学・職場体験学習を通して、自ら中学部以降の進路について考え、判断することができる。	①職場見学・職場体験学習・体験入学の際には事前に様々な情報を伝え、生徒が具体的なイメージを持って職場見学等に臨むことができるようにする。 ②職場体験学習の際には、一人一人の成果と課題を明確にし、生徒と進路について話し合う時間を持つ。 ③高等部や将来の具体的な情報を提供したり今何が必要なのか考える場面を設定したりするなど具体的な学習内容を計画する。			
	(高) 常に社会自立を意識させる生徒指導の徹底を図り、課題対応能力やキャリアプランニング能力を育成し、規律ある生活習慣を身につけるようにする。	ほとんどの生徒はきまりを守り生活できているが、一部生徒に精神面に課題があり、時間規律が身につけていない実態もある。また、まず自分で考えて行動する習慣が身につけていない現状もあり、社会自立に向けてさらに自ら考え行動する生活習慣を確立させる必要がある。	①将来の社会生活を意識しながら、規律(時間・言葉づかい・服装)を守り、学校生活を送る。 ②社会自立に関する自己の課題を知り、主体的に解決しようとする。	①生徒が課題意識をもって生活できるように、全教職員で共通認識し、指導を周知徹底する。 ②職業適性検査や内田ブレバリン検査を通して、自己を客観的に把握したり、「課題対応能力」や「キャリアプランニング能力」に関する生徒段階表を作成して自己評価に役立てる。			

豊かな自己表現力の育成	(地) ①個々の発達に応じて言葉の獲得・拡充を図るように親子のかかわり方を支援する。 ②学年に応じた話し方・聞き方のルールが分かり、話す・聞く力が身に付くようにする。	①子どもとやりとりする姿があまり見られない保護者があり、かかわり方の支援が必要である。 ②話を聞く時、注意喚起が必要な児童がいる。	①自分の思いを指さしや手話、言葉で伝えるようになる。 ②話す・聞くのルールを意識して自分の思いや考えを伝える。	①子どもが保護者とやりとりしながら自分の思いを伝えることができるように場を設定し、かかわり方を支援する。 ②学年に応じた話し方・聞き方のルールを設定し、確認する。		
	(幼) 心の動きを大切にし、表現力を高める指導を工夫する。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを伝えることが難しい。	朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表出し、伝えあう喜びを実感できるようになる。	①幼児の思いをくみ取り、表現できるように支援する。 ②話しかけが理解できるように実物や絵等を提示する。		
	(小) 友だちとの活動を通して自分の思いや考えを伝え合える力を育てる。	①友だちの意見を聞いて「同じです。」「他にあります。」等の返事ができるが増えている。 ②自分の思いを周りの人に伝えようとする気持ちはあるが、適切な言葉を使って表現することに課題があり、すすんで伝えられないことがある。	①自分の経験や考えを適切な表現で主体的に伝えようとする。 ②相手の話を最後まで聞き、自分の考えを伝えようとする。	①合同学活等の集団での時間において、友だちや先生と伝え合う学習場面を多く設定する。 ②伝え合いのルールを明確にして教室に掲示し、意識づける。		
	(中) 様々な集団活動において伝え合い活動を工夫し、生徒の自分の思いを伝えようとする意欲を高める。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、語彙力や表現力が弱い傾向にあり、周囲の状況を把握し相手の思いを推し測って発言するという積極的なコミュニケーションには至っていない。	自信を持って自分の思いを相手に分かるように表現する。	①報告会・弁論大会を通して、自分の思いを明確にし、表現する機会を持つ。 ②総合的な学習（ステージ発表）を通して、生徒が仲間と思いを伝え合う機会を意図的に設定する。		
	(高) 現場体験学習等を活用し、社会を意識した体験的学習を充実させるとともに、演劇等を活用し自己表現力を育成するなど、コミュニケーション力を身につけることができるようにする。	実際に仕事を進めたり、職場の人間関係を円滑にしたりするためのコミュニケーションが必要であることを具体的に生徒が理解できていない実態もある。そのために自己表現力を高めるなど自ら積極的にコミュニケーション力を身につける必要性が実感できるようにすることが課題である。	①劇や手話パフォーマンスを通して、表現力が向上する。 ②現場体験学習等で相手や場に応じて適切にコミュニケーションをとる力が向上する。	①日本語や役の心情、物語の内容と合う適切な表現やよりよい表現について、考えながら練習を進める。 ②具体的な場面を想定して事前に練習を積み、実際の場面で活かすようにする。		

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%） C：変化の兆し（60%） D：まだ不十分（40%） E：目標・方策の見直し（30%以下）